

牛乳パック、簡単に裁断

「パテントコンテスト」特別賞

高校生や学生を対象とした2021年度の「パテント(特許)コンテスト」(文部科学省、特許庁など主催)で、秋田工業高校(秋田市)の女子生徒3人が考案した「牛乳パック切斷装置」が、特別賞に輝いた。小学生の頃、飲み終わったパックを洗ったり、手で裂いたりするのに苦勞した思い出が開発のヒントになった。県内の生徒、学生が特別賞を受賞するのは初めて。

装置を作ったのは武田璃(陽里さん、1年)、阿部成乃杏さん(2年)、鎌田妃翔さん(同)。ロボットな



牛乳パックを裁断するアイデアでWIPPO賞に輝いた。(左から)鎌田さん、武田さん、阿部さん

秋田工高3人 装置考案、特許申請

どを作る「メカクラブ」の女子部長だ。

コンテストは知的財産権への関心を高めようと2002年度から開かれてい

る。今回は738件の応募があり、30件が優秀賞に選ばれ、特許の出願支援を受ける資格を得た。

そのうち6件が特別賞に選ばれ、3人の作った装置は特別賞の一つ「WIPPO(世界的所有権機関、本部ライス・ジュネーブ賞)を受賞した。同賞は「持続可能な開発目標(SDG S)」を達成できるアイデア

アが対象で、21年度創設された。装置は、牛乳パックをセ

ットしてレバーを下げる。3人は小学生の頃に感じた。ほかの2人も、小学生の力でパックを裂くのは大変だったことを覚えていた。

苦勞が開発のヒントに

(盛積央)



牛乳パックをセットし使用する時、レバーを下げて、セットしたパックを裁断する。(画像の一部を加工しています)

